

# みながっ子

かしこく やさしく たくましく やりぬく



東広島市立三永小学校  
【全校児童数】

1年1組	24名
2組	25名
2年1組	24名
2組	27名
3年1組	23名
2組	21名
4年1組	25名
2組	25名
5年1組	20名
2組	21名
6年1組	27名
2組	27名
すみれ	6名
たんぽぽ	3名
合計	298名

## 天まで 舞い上がれ！3年ぶりの炎



二十一日(日)。無風で晴天という好条件の下、三年ぶりにとんに火をつけることができました。切り出しも、当日の組み立ても、多くの方々の支えによって、予定通りに行うことができました。

当日は、三永まちづくり協議会を中心に、玉川雅彦さんや棟梁として作業が進められました。見上げるような高いとんが立ち上がった時には、見ていた児童から、大きな声が上がりました。卯年生まれの子ども達によって点火されたとは、音を立てて燃え上がり、習字を、炎と共に天高く舞い上げてくれました。

## たくさんのゲストティーチャーがおいでくださいました

伝統工芸を学ぶ



広島仏壇伝統工芸士会 会長の蓮池 稔さんをはじめ4名の工芸士の方々が、広島伝統工芸である仏壇作りについて4年生に教えてくださいました。金箔張りや組木等の細やかな作業に、集中して、ていねいに仕上げていくことの大切さを説きながら教えてくださいました。「ものを大切にすることは、人を大切にすることになる。」と、いう蓮池さんの言葉を受け止めながら、一つ一つの作業を進めていきました。何かと新しいものばかりに目を向けがちな昨今ですが、この広島で先人たちから受け継がれてきた大切な文化を見つめ直すことの重要性を感じました。

4年生は、東広島竹原人権擁護委員協議会・広島法務局東広島支局が主催されている「人権スポーツ教室」で、湧永ハンドボール部の選手の方々と交流しました。実技や選手の体験談を通してフェアプレー精神や相手を思いやる気持ちを学ぶ教室です。



ほとんどの児童が初めて体験するハンドボールを楽しみながら、選手の動き一つ一つのすごさに驚いていました。振れ合いの中で、たくさん学ぶことができました。

ハンドボールを体験

自分たちができることを考える

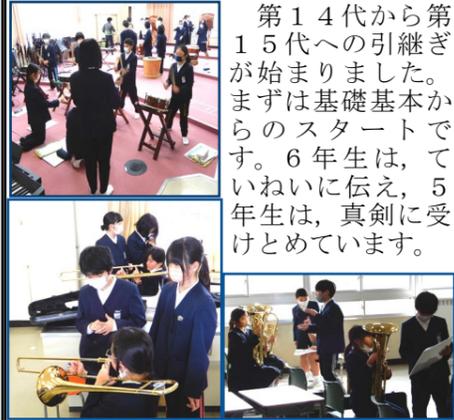
3年生の総合的な学習の時間に、「もみ処一休」を経営されている毛利マサオさんをお迎えしてお話を聞きました。周りの様子を視覚を通して確認できない中で生活することの実際を言葉で伝えていただきました。子どもたちは、その思いや努力された時間を想像しながら、また、生き生きと何にでも挑戦されている毛利さんの生き方に感心しながら話を聞き、改めて自分たちにできることを考えていました。子どもが出した意見の中で毛利さんが最も大切だとおっしゃったのは、「声かけ」でした。声をかけ合うことから作り出される安心感は、「生きる」ことへのエネルギーなのだと思います。

## オンラインで学ぶ社会科

## ふるさと三永 引継ぎ



1月25日(水)、「広域交流型オンライン社会科地域学習」を3年生が行いました。広島大学と東広島市の関係について、市の変化等を関連付けながら、考えを深めていきました。自分たちの学級で話し合っていることを他校の学級の考えと比較したり、つなぎ合わせたりしながらの有意義な2時間で、多くの学びがありました。



## 「世界一美しいぼくの村」小林豊先生をお迎えして



1月27日(金)の午前中、日本画家で絵本作家の小林豊先生をお迎えして特別授業を行いました。4年生の国語の教科書にある「世界一美しいぼくの村」は、小林先生がアフガニスタンについて書かれた作品です。参加した4年生から6年生までの児童は、その作品を通して持った疑問や直接先生に聞いてみたいことなどを質問し答えてもらいました。時間と共に内容も深くなり難しくなってきた、「人の生き方」や「人とのかわり方」に繋がるような話に進んでいきました。

これから自分の夢に進んで行く子ども達にとって、多様な経験を積まれた方のお話を聞くことは、貴重な体験になったのではないかと思います。



わたしが特別支援教育の担当者として歩み始めたのは、新規採用で赴任した学校です。

前の担任から引き継ぎのときに、2年生のA君が自閉症ということを知りました。お恥ずかしい話ですが、自閉症ということばをこの時初めて聞きました。



特別支援教育について、専門的な研修を受けていない私が、担任してよいのだろうかという、迷いがありながらのスタートでした。最初はとにかく戸惑いの連続でした。私が何をどうすればよいか分かっていなかったのですから、A君はもともと困ったはずで。

自閉症って何？どうしてことばを話さないの？どうやってこちらの気持ちを伝えたいの？

こうした問いを持ち続けながら、一緒に生活する中で気づいたことを記し、家庭との連携を日々続けていきました。

そして、特別支援教育に関する研修会にも参加し、知見を得ながらですが、いろいろな問いに対する答えを探っていた三年間でした。

私を本当の意味で、先生にしてくれたA君との日々は私の教師としての原点です。

その後、通常の学級担任をしばらくしてから、当時制度化が進められていた通級指導教室の担当者になりました。

当時は、特別支援学級に在籍している児童も指導を行っていたので、自閉症の子どもたちも通っていました。

そこに、絵をかくことが好きなB君がいました。B君は出会った当時は、音声言語を通じた会話でのコミュニケーションがまだできませんでしたので、身振りやジェスチャー、実物を使ってやりとりをしていたように思います。B君が描く絵は、乗り物の絵が多く、細かいところも丁寧に描くのが特徴でした。



あるとき、パトカーの絵をかいていたのですが警察庁のマークをもっとちゃんと描きたいと、言葉ではありませんが私にうったえてきたのです。今のようインターネットですぐに画像を提示することができなかったため、警察署に行き、事情を説明し、写真を撮らせてもらってB君にみせました。そのときのB君の嬉しそうな表情は今も忘れることができません。

前回、自閉症について文部科学省の解説を中心にお伝えしましたが、自閉症スペクトラム障害のについての参考を記します。

「二〇一三年、米国精神医学会による精神障害の分類と診断基準の改訂版（第五版）」が刊行された。このDSM-5では、広汎性発達障害PDDの用語が自閉症スペクトラム障害ASDという用語に変更された。自閉症スペクトラムとは、自閉的な特徴がある人は、知能障害などその他の問題の有無・程度にかかわらず、その状況に応じて支援を必要とし、その点では自閉症やアスペルガー症候群などと区分しなくてよいという意味と、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障害の低位分類の状態はそれぞれ独立したものではなく状態像として連続している一つのものと考えられることである。二つの意味合いが含まれた概念である。したがって、自閉症スペクトラム障害には低位分類がなく、自閉的な特徴のある子どもは全て自閉症スペクトラム障害の診断名となる。」

ことばときこえの教室は、通常の学級に在籍している自閉症スペクトラム障害のある子どもたちの相談・指導の場所でもあります。

ご心配がありましたらご相談ください。



# 3月の行事予定

日	曜	学校行事	下校時刻変更	14時50分	15時40分
1	水	6年生を送る会		1・2年生	3～6年生
2	木			一斉下校	
3	金			1・2年生	3～6年生
4	土				
5	日				
6	月	委員会		1・2年生	3～6年生
7	火			1・3年生	2・4～6年生
8	水			1・2年生	3～6年生
9	木			一斉下校	
10	金			1・2年生	3～6年生
11	土				
12	日				
13	月			1・2年生	3～6年生
14	火			1・3年生	2・4～6年生
15	水			1・2年生	3～6年生
16	木	放課後子ども教室		一斉下校	
17	金	6年生修了式	1～3・6年生 13:50		4・5年生
18	土	卒業証書授与式	一斉下校11:30		
19	日				
20	月	振休			
21	火	春分の日			
22	水			1・2年生	3～5年生
23	木			一斉下校	
24	金	修了式 離任式		一斉下校	
25	土				
26	日				
27	月				
28	火				
29	水				
30	木				
31	金				

- ・学年末休業日 3月27日(月)～3月31日(金)
- ・学年始休業日 4月 3日(月)～4月 7日(金)
- ・新6年生は、4月7日(金)は登校。始業式と入学式の準備
- ・始業式 入学式 4月10日(月)

## 編集後記



このマークを存していただく。内閣府のホームページの説明で、聞こえが不自由であることを表すと同時に、そのことに対する配慮を促すマークだそうです。

最近では、コンビニエンスストアのレジで、このマークと共有しているところも多くなったようです。対話の難しさをシートに描いてあることを指さして補うもののようです。

世の中は、関わり合いの中で成り立っています。他者を思いやる気持ちや行動がとれる人になることは、簡単なことではないのかもしれませんが、必要なことなのだと思います。



この日に、三年生が主体的に呼びかけられた「盲導犬募金」の参観日です。来校された保護者の方のほが、お子さんに金をお預けくださり、ご参加くださいました。金箱に届いた募金は、きっとお金の力で感動を覚えたのだと感謝いたします。